

令和 6 年度 学校評価シート（自己評価）

精 華 幼稚園

1、園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して様々な個性を持った人間と接していく中で、相手の存在に気づき、認め、助け合える、豊かな心を持った子どもを育てる。

全ての活動において、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、結果にこだわり教え込むのではなく、子ども自身が自ら考え、興味や関心をもってすすんで活動出来る意欲、態度を培う。

2、具体的な目標や計画

社会生活に必要な能力について、家庭での捉え方が多様化している。集団の重要性を子どもたちがしっかり理解し、身に付けられるよう工夫しながら保育にあたる。

教職員が園の教育目標を十分に理解し、子どもたちが自己肯定感を高め、相手の存在も尊重できるように一人ひとりとしっかり向き合い、日々丁寧な保育を行う。精華幼稚園らしさを様々な機会にアピールし、保護者との信頼関係も築く。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
(1) 子どもの実態を的確に掴み、具体的な手立てを講じる	A	発達支援が必要な子が増えている中で、分け隔てなく対応している反面、その子の特性を考えながら、教職員が関り、様子を見ながら保育に反映している。
(2) 規則正しい生活習慣や集団生活のルール定着に向けての指導を行う	A	幼児期に身に付けてほしい生活習慣を、一人ひとりに根気よく伝え、また集団生活における重要性を繰り返し伝えていた。
(3) 保護者のニーズを把握し、幼稚園の状況を踏まえて時代に沿った適正な対応をはかる	B	バスの GPS システムを早急に取り入れ、バスの運行だけではなく、保護者がバスの到着時間の把握ができ、待つ間の危険回避ができていた。 園に求められる社会ニーズは多様化している。今後、長期的にどのようなニーズに对应していく必要があるのかをもう少し具体的に検討し、対応できるようにしていかなければならない。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	園児が減少傾向の中、教師が一人ひとりに目が行き届きやすくなっているが、支援を要する園児も増えている。マニュアルはないが、その子に合った対応の仕方を教師自らが考え、努力し、学んでいくことで教師の質の向上に繋がっていると感じた。また、一番は子どもたち自身が楽しく日々を過ごしていることだと思う。 これから取り組むべき課題については、全教職員が共通理解し、取り組み状況を話し合うことを通して、教育目標を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
園児及び教員の確保と預かり保育	周辺地区の幼児数の減少や共働き世帯が増えており、年々園児の確保が厳しくなっている。保育内容よりできるだけ長時間預かってもらえる施設に入園することを望んでいる保護者多く、サービス事業化しているようにも感じる。 その中でいかに保育の重要性を伝えていくか、また精華幼稚園をもっと知ってもらうためにどのようなアピールができるか、様々な方面から意見を聞き、参考にしていきたい。 【プラス保育】も年々定員数が増え、待機している園児もいる。定員を増やし、園児確保に役立てたいが、増えれば人手も必要になる。求人しても人員確保には至らず苦悩している。退職教員や資格を持っている保護者などに積極的に声を掛けて人員の確保に努めたい。
環境作り	空き教室を利用した『キッズ・スペース』が整備できつつある。わざわざ購入せず、あるものを利用し、なるべく費用を抑えながら子どもたちが楽しく遊べる場所を来年度中に出来上がるようにしていく。
SDGs 活動	園で無理なくできる活動（食品ロスを減らす・ペーパーレス化・ジェンダーレス教育・感染症にかからないようにする等）を進んでいき、環境の大切さを子どもたちにも知ってもらう機会を作っていきたい。

令和6年度 学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園	学校関係者評価委員会		
日 時	令和 7 年 3 月 31 日（月）		
	16：00 ～ 17：00		
出席者	評価委員（学識経験者）	5 人	
	評価委員（卒園児）	5 人	
	評価委員（教職員）	5 人	

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

昨年度の委員会で話しがあった、園バスの GPS システムを年度初め早々に導入し、活用できたことは、園にとっても利用者にとってもメリットが多かったと察する。バスの運行も年間を通してスムーズだったようで一番の評価材料だと思う。

2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切であったと思われる。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

人手不足は深刻な状況だと察する。
評価委員として、少しでも役に立てるところは協力をしていきたい思いである。園としても最大限の努力をお願いしたい。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

概ね適切である。
子どもを取り巻く環境がどんどん変わりつつある中で、私学の良さを発揮し、子どもたちが自己肯定感をもって、生きていく術の基本を培っていただくと共に、自分を取り巻く環境にも目を向けるようにしていただきたいと思う。